

ID No.109	
研究課題名	原発性免疫不全症に対する臍帯血ミニ移植後の混合キメリズムの解明と治療法の開発
研究代表者	森尾 友宏 （東京医科歯科大学・准教授）
研究組織 受入教員 研究分担者	渡辺 信和 （東京大学医科学研究所）
研究報告	
クロスセクショナル・スタディー及びフォローアップ・スタディーを継続し、フローサイトメーター解析、および臨床データの収集、KRECs, TRECs測定による免疫学的再構築評価を行った。本年は、SCID臍帯血移植症例2例で解析を行った。1例では移植前に母親由来T細胞が存在しており、移植後の複雑なキメリズムの解析を試みた。その結果、HLA-Flow法により、末梢血では移植前maternal T、移植後各免疫担当細胞、骨髄では各分化段階の細胞につき精緻なキメリズム解析が行えることが確認された。骨髄の造血幹細胞(HSC)、造血前駆細胞(HPC)は表面抗原にて分別可能であることが、sorting、コロニーアッセイと合わせた解析で明らかになった。また、HSC, HPCにおけるキメリズム解析も可能であった。 KRECs, TRECsデータと合わせ、長期的な免疫能の指標との関連を明らかにする状況が整った。また現在、厚生労働省難治性疾患克服事業原発性免疫不全症調査研究班の施設の大半から、検体を受け入れることができる体制となっている。	